

平成 26 年度青森市急病センター運営審議会 会議概要

日 時：平成 26 年 10 月 30 日（木）午後 7 時～午後 8 時

場 所：青森市役所 3 階 福利厚生室

出席委員：工藤委員（議長）織井委員、齋藤委員、池田委員、成田委員、近藤委員、
近井委員、高田委員《計 8 名》

欠席委員：横田委員、吉崎委員

事務局：青森市副市長 加賀谷久輝、管理者 青森市医師会長 成田祥耕、
健康福祉部長 赤垣敏子、健康福祉部理事 能代谷潤治、
健康福祉部参事健康福祉政策課長事務取扱 木浪龍太、
健康福祉政策課主幹 堀川慎一、健康福祉政策課主査 相馬康宏、
健康福祉政策課主事 兼平祥貴、健康福祉政策課主事 山口雄一郎《計 9 名》

+++++

【会議次第】

- 1 開会
- 2 青森市副市長あいさつ
- 3 青森市医師会長あいさつ
- 4 案件
 - (1) 報告事項 平成 25 年度青森市急病センター事業実績等について
 - ・青森市における救急医療体制の状況
 - ・平成 25 年度青森市急病センターの利用状況
 - ・平成 25 年度青森市急病センター運営等に係る歳入・歳出予算
 - ・平成 26 年度青森市急病センター運営等に係る歳入・歳出予算
 - (2) その他 平成 25 年度運営審議会における意見等について
- 5 閉会

【会議要旨】

- (1) 報告事項 平成25年度青森市急病センター事業実績等について
⇒事務局より資料 P1～P9 のとおり説明があった。

意見・質疑応答 なし

- (2) その他 平成25年度運営審議会における意見等について
⇒事務局より資料 P10～P11 のとおり説明があった。

意見・質疑応答

○青森市急病センター小児科常勤医の導入の検討について

(委員)

- ・ 小児科医は市内の開業医 12 名で急病センター当番をおこなっており、平均年齢が約 60 歳で若い医師が少ない状況。急病センターは症状を軽症で終わらせ、重症化させないという狙いがあり、次の日でも良いような患者も受け入れるゲートキーパーの役割を持つ。そのためにも職場環境や収入の面で市に考慮してほしい。
- ・ 救急医療の現場は経験がなければ不安だろうが、経験を積む現場としても最新設備で働いてきた人にとって、急病センターの現状の設備では難しいかもしれない。
- ・ 小児科医も少ないが、急病センターで働いてくれる若い薬剤師も少なくなっている。給与待遇、職場環境の改善など、市に考慮を求む。

○救急医療を受診する際の情報提供について

(委員)

- ・ (移送の際) お薬手帳持参者は増えてきたが、その他に、病名、直近の情報なども提供してほしい。また、神経質な性格の方、パニックを起こしやすいなどの患者の補足情報もいただきたい。

○市外居住者の受診について

(委員)

- ・ 小児科を例に出すと、県立中央病院は平内、野辺地が小児救急を持っていないのでウォークインとして来ているようだ、外ヶ浜など西側はあまり来ていない印象。

(事務局)

市外居住者の受診は、年末年始、GW などは、帰省客、旅行客の急病がほとんどである。

◆その他意見

○福祉施設入居者の救急対応について

(委員)

- ・ 急病センターにおける年齢別利用状況と同様に、各救急医療施設でも利用者は高齢者と小児の割合が年々増えているが、急病センターでは、高齢者の患者のうち施設からの患者数の割合は把握しているか。
- ・ 救命救急センターは相当増えている。急病センターの存在を知らないか、判断がつかず来ているのかも知れない。
- ・ 福祉施設の夜間救急対応策が十分でない。看取り加算まで取っているのに、ちょっとしたことで救急医療施設に送るようでは問題。バックアップドクターのルールを決めるべき。
- ・ 県立中央病院でも統計を取れるか検討してみたい。

(事務局)

- ・ 現状では急病センターは統計を取ってはいないが、多くはない印象。
- ・ 施設とは特別養護老人ホームや老人保健施設なのか、グループホームや有料老人ホーム系なのか。事務局としても種類別で統計を取る必要があるか検討したい。

○ 救急病院の時間外診療について

(委員)

- ・ 県立中央病院や市民病院は通常予約制をとっているが、時間外に予約なしで、自力で移動可能な患者が来ると思われるが、今後どのような体制で臨むことになりそうか。
- ・ 市民病院では、紹介状をもらってくるように掲示しているが、ウォークインが多い状態で、外来と急患でごった返している。紹介状を持ってくる人だけ対応するとかは考えられない状態。
- ・ 県立中央病院が、かかりつけだった場合、受付で受診相談後に受診するケースはあるが、まったくの紹介もなく来る患者は「総合診療部」で対応する。これは積極的に受けているのではなく、受け皿として担っている。また、通常診療時間のウォークインであっても症状によっては救命救急センターで受けることもある。
- ・ 医療を学ぶ学生にも初期救急、二次救急が分かりにくいとの声あり。それぞれの代表的な症状の例示を挙げ、役割を紹介してはどうか。